

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		4/10-4/17	4/17-4/24
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.081
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.065
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.029
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.073
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.037
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.030
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.027
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.040

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		4/10-4/17	4/17-4/24
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.019
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.013

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第108回目(2019年4月10日~4月24日)

今回の観測結果は、セシウム137濃度が平均0.056mBq/m³で健康影響を心配することはありませんのでご安心ください。因みにこの濃度のセシウム137から放射される放射線による被ばく量は、大雑把にいつて年あたり0.015μSvとなります。日本人は、今回の事故に関係なく、一年間に食べ物からおよそ990μSv、大地から330μSv、宇宙から300μSv、空気中のラドンから480μSvの放射線を被ばくしています。この自然放射線による総被ばく量(2,100μSv)と比較すると、現在の南相馬市の大気浮遊じんに含まれる放射能に由来する被ばく量は、自然放射線量の14万分の1程度で被ばくによる健康への影響は心配ありません。